

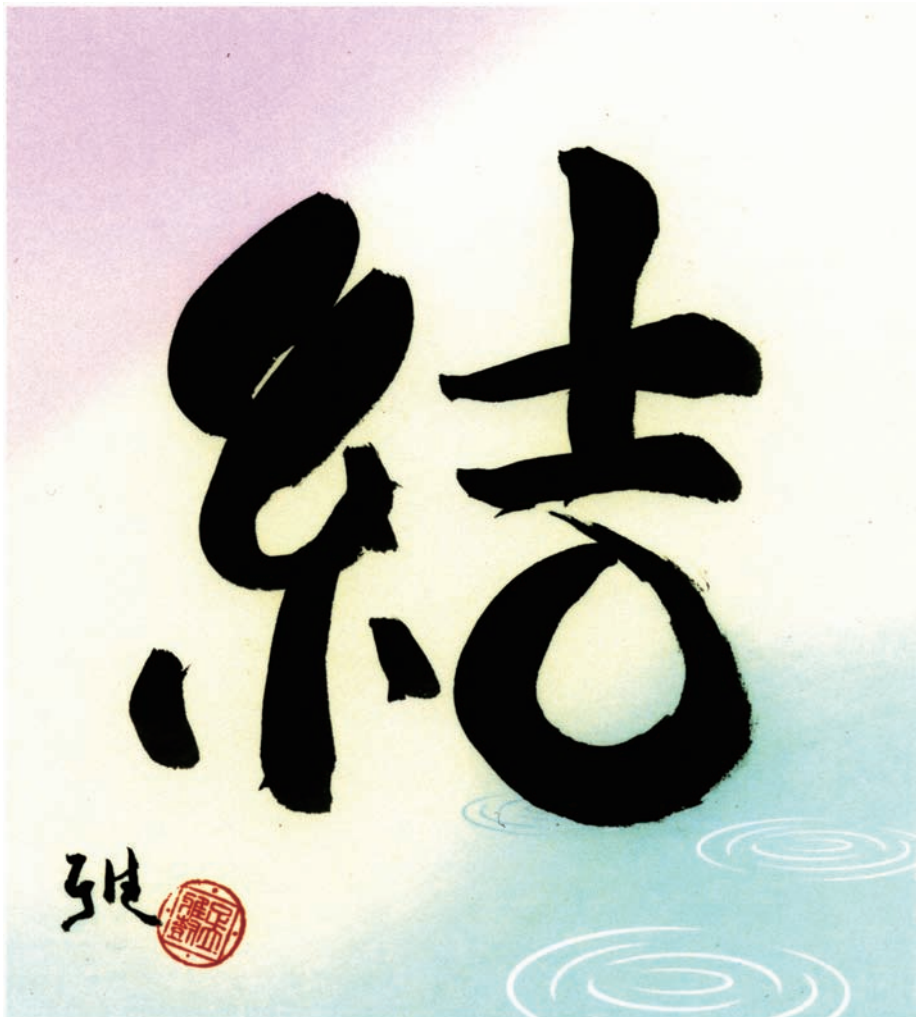


埼玉医科大学医学部

同窓会会報

第55号

—特集号—東日本大震災、その時・その後
平成24年10月



巻 頭 言

会長 渡 辺 雄 幸



会員の皆様，そして被災された皆様におかれましては，いかがお過ごしでしょうか。昨年の東日本大震災から，早や一年半の歳月が過ぎ，被災された皆様には，あらためて心よりお見舞いを申し上げます。また親戚やご友人が被災された会員の皆様も，さぞ御心痛の事とお察し申し上げます。

さて，未曾有の大震災が残した傷跡は，一年半たった今でもまったく癒えておらず，生活は落ち着きを取り戻しつつも，いまだ解決されていない問題に加え，新たな問題が生じてくるといった，まだまだ先が見えない状況が続いているようです。被災された同窓生が，元の生活を取り戻せるか，あるいは戻らないまでも，新たな生活が軌道に乗るまでは，決して忘れることなく，できうる限りの支援をしていかなければならないと思っております。

また，昨年，同窓会会員の皆様に義援金を募ったところ，多くの会員の皆様から，温かい励ましと義援金を送っていただきました。本当にありがとうございます。今年6月の総会でもご報告させていただきましたが，短

い期間に多くの義援金が集まりました。被災された方に対する皆様の意気込みを感じ，本当に心のこもったご支援と感謝しております。重ねて厚く御礼申し上げます。

震災直後から被災地に行って，様々な形で支援活動を行っていた多くの同窓生がいました。そんな頑張っていた姿を，少しでも伝えたいと思います。被災された当時に振り返って，また今はどんな状況なのか，その声を皆様に伝えたいと思います。そしてまた，今後も伝え続けたいと思います。

被災された地域が，現在どのような状況で，今何が一番困っているのか，今何を必要としているのか，私たちができることは何か，そしてどうすればいいのか。全ての同窓生に被災地の今を知っていただいて，皆で考えていきたいと思っております。

そしてまた，今回の大震災が，いずれ自分たちにも起こりうることを銘記しておく必要があると思っております。

最後に，繰り返しになりますが，被災された同窓生の皆さん，心配している多くの同窓生がいることを忘れずに，頑張ってください。